

イズミノオト

ヴァイオリン
会田 莉凡



©Kei Uesugi

桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコースに第81回日本音楽コンクール第1位併せて4つの副賞を受賞。第6回ルマア国際音楽コンクール、秋吉音楽コンクールなどで優勝ソリストとして日本各地のオーケストラと共演するほか、宮崎国際音楽祭、サイトウ・ウキネン・オーケストラに毎年参加。トリオン・晴れた海のオーケストラ、ンバ、岩澤麻子、鷲見健彰、徳永二男の各氏に師事。2020年4月より京都市交響楽団特別客演コンサートマスター。

ヴァイオリン
安達 真理



東京を拠点にソリスト、室内楽奏者として幅広く活動するなか、今年度より日本フィルハーモニー交響楽団ヴァイオリン客演首席奏者に就任。今年8月、TOKYO RECORDSよりバスの無伴奏作品を収録したアルバムリリースも控えている。2013年よりインスパルック交響楽団にて副首席奏者を2年間務め、2016年以降、パーヴォ・ヤルヴィ氏率いるエストニア・エステイル管弦楽団にも参加している。

https://www.natradachi.com/

ヴァイオリン
大江 馨



©Shigeto Imura

仙台市出身。桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコースに特待生として入学。同時に慶應義塾大学法学部にて学び、卒業後、ドイツ・クロンベルクアカデミーを修了。2019年、レオポルトモーツァルト国際ヴァイオリンコンクール第3位、2013年日本音楽コンクール第1位ほか国内外にて数々の受賞。これまで、内尾高忠明、山田和樹、川瀬賢太郎各氏等の指揮でNHK交響楽団ほか数多くのオーケストラと共演を重ねる。使用楽器は、文京楽器協力のMonte International Societyより貸与のStradivari。

チェロ・コーディネーター
吉岡 知広



©Masafumi Tamura

仙台市泉区出身。桐朋女子高校音楽科(現)を経て桐朋学園大学音楽部門を卒業。その後、ライプツィヒ音楽演劇大学大学院に在学するともに、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団と学生契約をし、在籍卒業後は同管弦楽団アカデミーに在籍。第9回ピエール・チャコフスキー国際コンクール第4位入賞。チェロを金木博幸、青木十良、藤原真理、毛利伯郎、C・キガーの各氏に、室内楽を今井信子氏、東京クァルテットに師事。現在、仙台フィルハーモニー管弦楽団首席チェロ奏者として在籍。

【プログラム】

ドヴォルザーク

弦楽四重奏曲第12番 へ長調 作品96 B. 179 「アメリカ」

ヤナーチェク

弦楽四重奏曲第2番 「内緒の手紙」

スメタナ

弦楽四重奏曲第1番 ホ短調 「わが生涯より」

新型コロナウイルス感染予防のため、ご協力をお願いいたします。

- 37.5度以上の発熱や咳、咽頭痛、倦怠感、味覚・嗅覚の喪失等の症状がある方は、ご来場をお控えください。
- ご来場の際は必ずマスクを着用いただき、こまめな手洗い、手指消毒などの感染予防にご協力ください。
- チケットの半券にお客様の氏名・電話番号をご記入ください。万が一、会場で感染者が出た場合は、連絡先を保健所等の公的機関へ提供させていただきます。あらかじめご了承ください。
- 新型コロナウイルス接触確認アプリのインストールを推奨します。
- お客様同士の距離の確保をお願いいたします。
- 時間に余裕をもってお越しください。
- 会場では大声での発声をご遠慮ください。
- 退場は順番にご案内いたします。
- 出演者・関係者へのプレゼントおよび、お客様のお荷物のお預かりはできません。
- 出演者・関係者への面会はお断りします。

仙台銀行ホール イズミティ21コンサートシリーズ
Facebook公式ファンクラブ イズミノオトモダチ
URL: <https://www.facebook.com/izuminootomodachi/>

仙台銀行ホール イズミティ21 コンサートシリーズ

イズミノオト 第5回 スメタナ・ドヴォルザーク・ヤナーチェク 故郷ノ回顧録

2021

7/3 (土)

ヴァイオリン

会田 莉凡

〔開演〕午後3時(開場午後2時30分)

〔会場〕仙台銀行ホール イズミティ21 小ホール

(仙台市営地下鉄泉中央駅北3出口すぐ)

〔入場料〕全席指定 3,000円

(市民文化事業団友の会料金2,700円)

※未就学児はご入場いただけません

ヴァイオリン
大江 馨

ヴァイオリン
安達 真理

チェロ・コーディネーター
吉岡 知広

Bedřich Smetana
Antonín Dvořák
Leoš Janáček

〔プレイガイド〕仙台銀行ホール イズミティ21、日立システムズホール仙台臨時事務所、藤崎、仙台三越、ローソンチケット(Lコード:21843)
〔チケットに関するお問い合わせ〕仙台市市民文化事業団 総務課 TEL:022-727-1875(平日9:30~17:00)
〔公演に関するお問い合わせ〕仙台銀行ホール イズミティ21 TEL:022-375-3101(9:30~19:30休館日を除く)
〔主催〕公益財団法人仙台市市民文化事業団、KHB東日本放送 [企画制作]仙台銀行ホール イズミティ21、HAL PLANNING
〔協力〕日本音楽財団(日本財団助成事業) [協賛]仙台銀行

おかげさまで、仙台銀行は2021年7月5日に創業70周年を迎えます。

これからも、みなさまに信頼される銀行をめざして、さまざまな地域支援活動に取り組んでまいります。

確かな信頼 これからも

70th ANNIVERSARY

仙台銀行

仙台銀行は「コンサートシリーズ イズミノオト」に協賛しています。

音と心のリアリズム

〜チェコで生まれた3つの弦楽四重奏曲〜
文：吉川和夫(作曲家、聖和学園短期大学学長)



ブラハ市内を流れるヴルタヴァ川

文学に「私小説(ワタクシヨウゼツ)」と呼ばれるものがあります。作者が、自分自身や家族など身近な人をモデルとして実際に起こった事象や真情などをありのままに描くもので、田山花袋や志賀直哉のほか、太宰治の一部の作品にも指摘されます。しかし、「私小説」はあつても「この音楽作品は『私(ワタクシ)音楽』である」と呼ばれることはありません。音楽はことばに比べて抽象的ですから、音そのものによって描くものは、文学の「私小説」がめざすリアリズムとは違っているからでしょうか。

ロマン派の音楽作品には、「私小説」私音楽」と呼んで差し支えない作品が多いように思います。恋や妄想、歓喜や悲嘆など、作曲者自身の精神的な実体験が発端になりますが、単なる気分や感情だけで音楽作品を成立させることはできませんから、一個人の一次的な感情を超えた普遍的な人間精神の在りように浄化しお寄せた作品が、名曲として愛され続けることになるでしょう。

少し話が逸れますが、「標題音楽」と呼ばれるものがあります。例えば、ベートーヴェンの交響曲第6番「田園」には、各楽章に「田舎に着いた時の愉快な気分」「小川のほとりの情景」など、曲の理解を促すようなタイトルが付けられています。あるいは、「交響詩」作曲家が題材とした伝説や自然、物語などが、タイトルと「作曲者のことば」によって提示され、音とことばによって、水の源流が大河になっていく様子や、伝説のいたずら者の所業と運命などが聴き手に受容されるのです(ただし、作曲のエピソードを知らない作品を理解できないということはありません。音楽以外の文脈を排除して、音そのものだけと向き合おうとするのも構わないことです)。

今回の公演の「故郷ノ回顧録(メモワール)」という副題は、いみじくも、この3作品の「私小説」私音楽」的性格を示しているように思います。いまここで「私小説」私音楽」と呼ぼうとしているのは、作曲者自身の体験や内面を色濃く映し出す作品です。時に荒唐無稽な絵空事が広がるのを楽しむ「ロマン主義」に対して、自然主義的なリアリズムをめざす「私小説」は、本来アンチの関係に立つものですが、音楽の場合は、「私小説」私音楽」と「ロマン主義」は区別されません。「私小説」私音楽」では、作曲者の内面を共有するために、標題音楽以上に具体的なタイトル、「作曲者のことば」を介在させる必要があるでしょう。

今回のプログラムを作曲された順に、少し詳しく見ていきましょう。

19世紀初頭のボヘミアは、政治的にも宗教的にもオーストリア帝国の支配下にありました。のちにチェコの国民的作曲家となるスメタナは、1824年ボヘミアの大都市リトミシュルに生まれます。ビール醸造技師であり、アマチュアながら熱心なヴァイオリニストでもあった父の影響もあり、幼少期から音楽の才能を現します。家庭でも学校でもドイツ語を話し、30歳を過ぎるまでチェコ語の手紙を書いたことがなかったと言われますが、1848年のブラハ革命を直接のきっかけとして、スメタナは愛国心をかきたてられ、ボヘミア民族のアイデンティティを追求する作曲家となつていきます。リストやヴァーグナーからの影響を非難されながらも、1879年には連作交響詩「わが祖国」を完成し、翌年初演されました。6曲からなるこの不朽の名作の第2曲は、特に有名な「ヴルタヴァ(モルダウ)」です。しかし、実はこの連作交響詩の第1曲が完成する前からスメタナの健康は悪化し、1874年7月には両耳の聴力が失われました。

《弦楽四重奏曲 第1番「わが生涯より」》は、1876年に「わが祖国」と並行して作曲されました。スメタナ自身「音によって、自らの生涯を描く」と述べ、各楽章に添えたことばが物語るように、この作品はスメタナ自身の音楽による自叙伝です。第4楽章の後半には、耳鳴りを現すかのような衝撃的な高音が鳴り響きます。最晩年は鬱発作を起すなど、平穩にはほど遠い日々でしたが、スメタナは自らのアイデンティティを書き遺すために、「私小説」私音楽」の意識でこの作品をまとめたのです。不屈の意志に貫かれた傑作です。

ドヴォルザークは、1841年ブラハ近郊の村、ネラホゼヴェスで生まれました。村の音楽教師から手ほどきを受け、村の教会や楽団でヴァイオリンを弾くようになります。礼拝の後や祝祭の日、父が営む宿屋兼居酒屋、肉屋に夜通し鳴り



ベドジフ・スメタナ

1824年 3月2日 ベドジフ・スメタナ生まれる。
1841年 9月8日 アントニン・ドヴォルザーク生まれる。
1854年 7月3日 レオシュ・ヤナーチェク生まれる。
1866年 スメタナ、

新国民劇場仮劇場オーケストラ首席指揮者となる。
このオーケストラのヴィオラ首席奏者はドヴォルザーク。



国民歌劇場仮劇場

1874年 スメタナ健康状態が悪化し、聴力を失う。
1876年 スメタナ「弦楽四重奏曲第1番「わが生涯より」」を作曲。
1878年 ドヴォルザーク、「スラフ舞曲第1集」を作曲。
1879年 スメタナ「連作交響詩「わが祖国」」完成。
1884年 5月12日 スメタナ死去。
1892年 ドヴォルザーク、「ニューヨーク・ナショナル音楽院院長に就任(95年まで)」。
1893年 ドヴォルザーク、「交響曲第9番「新世界からを、次いで弦楽四重奏曲第12番「アメリカ」」を作曲。
1903年 ヤナーチェク、「オペラ「イェヌーファ」」完成。
1904年 5月1日 ドヴォルザーク死去。
1928年 ヤナーチェク、「弦楽四重奏曲第2番「内緒の手紙」」を作曲。
8月12日 ヤナーチェク死去。



アントニン・ドヴォルザーク

や管弦楽法の授業を受け持ち、合唱やオーケストラを指導し、自作を含む演奏会を指揮しました。音楽院には少数ながら黒人学生も含まれており、また黒人歌手が歌う黒人霊歌に強い関心を持つ「聴いたと言われます。ドヴォルザークの音楽は好意的な拍手に包まれ、決して居心地の悪い異郷ではなかったと思われませんが、そのことを何よりも示しているのは、アメリカの地で、ドヴォルザーク生涯の傑作と呼んで差し支えない3つの作品が生まれたことです。すなわち、交響曲第9番「短調」「新世界から」、《弦楽四重奏曲 第12番「長調」「アメリカ」》、チェロ協奏曲「短調」です。たしかにドヴォルザークは黒人音楽に関心を持っていましたが、これらに黒人音楽の直接的な引用はなく、アメリカの水に足元を浸しつつ、故郷ボヘミアを想う個人的な心情が映されていると考えべきでしょう。(なお、作曲者の愛国心を尊重するならば、よりチェコ語の発音に近いドヴォルジャーク、もしくはドヴォゾヤークと記すのがふさわしいのですが、ここでは慣例に従ってドヴォルザークと表記しています。)

ボヘミアを生誕の地とするスメタナドヴォルザークに対して、ヤナーチェクはモラヴィア北東部のフクヴァルディという村で生まれました。父は小学校教師で、貧しい環境ながら地域の教養人として頼りにされていたと言われます。ヤナーチェク自身も、モラヴィアの首都ブルノで教師になる資格を取りながら合唱指導者として活動し、ブラハのオルガン学校でも学びました。ブラハでは、スメタナの「ヴルタヴァ(モルダウ)」の初演を聴き、聴力を失っていた作曲家が熱狂的なカーテンコールを受ける姿に感銘を受け、またドヴォルザークと親交を結び、作品に助言を受けました。国境を超えて活動の場を広げていたスメタナやドヴォルザークと違い、ヤナーチェクは短期間ライプツィヒやウィーンに滞在したものの、生涯の大半をブルノやフクヴァルディで暮らしました。

モラヴィア民俗音楽からの影響に加えて、モラヴィアことばのアクセントや音程を会話から聴き取って音楽に反映させる「発話旋律」、短いフレーズを執拗なほど反復し、主旋律になりたり背景になったりしながら音楽を推進させる手法など、ヤナーチェクの作風は大変独特で、手本となる作曲家も見当たらない後継者もいません。その本領は、「イェヌーファ」、「利口な女狐の物語」などのオペラにおいて発揮されています。また、チェコ人の権利をめぐってチェコ人とドイツ系市民が対立し、軍隊によって殺害されたチェコ人青年を悼んで作曲した「ピアノソナタ(1905年10月1日「街頭」では、20世紀の作曲家によるアンカー・ジュマン(社会参加)を先駆けています。

1917年以来、38歳年下の既婚女性カミラ・シユテスロヴァーにプラトニックな恋慕を抱き、ヤナーチェク自身も既婚者でしたが、最晩年まで600通もの「恋文」を送ります。この恋文は、ヤナーチェクの様々な作品に靈感と活力を与えましたが、とりわけ《弦楽四重奏曲 第2番「内緒の手紙」》は、副題どおり「個人の心情を込めた作品」と言われています。文学であれば、まさに「私小説」と呼ばれるものでしょう。

公演のプログラムは、すべてチェコの作曲家によるものです。しかし、ドイツと接する西側のボヘミアと、スラフ特有の色合いを持つ東側のモラヴィアでは、文化のあり様に大きな違いがあります。ほぼ半世紀の間に「私小説」私音楽」の肌合いを持つ名作が3曲も生まれたのは偶然ではなく、ヨーロッパ文化の周縁地域、抑圧された政治状況、弦楽四重奏という楽器編成の親密性など、いくつかの必然が重なった結果であると考えられます。3つの作品の違いをお楽しみ頂けたら幸いです。



レオシュ・ヤナーチェク

Bedřich Smetana Antonín Dvořák Leoš Janáček

イズミノオト

チェロ・コーディネーター
吉岡 知広



©Masafumi Tamura

ヴァイオリン
植村 太郎



©Shigeto Imura

ピアノ
浜野与志男



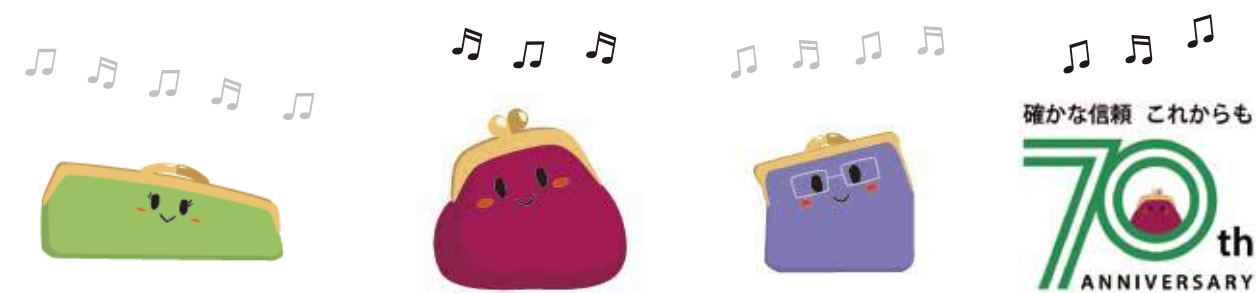
©Shigeto Imura

仙台市泉区出身。桐朋女子高校音楽科(共学)を経て桐朋学園大学音楽部門を卒業。その後、ライプツィヒ音楽演劇大学大学院に在学するとともに、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団と学生契約をし、在籍。卒業後は同管弦楽団アカデミーに在籍。第9回ピバホールチェロコンクール第4位入賞。チェロを金木博幸、青木十良、藤原真理、毛利伯郎、C.ギガの各氏に、室内楽を今井信子氏、東京クアルテットに師事。現在、仙台ライバルハーモニ管弦楽団首席チェロ奏者として在籍。

桐朋学園大学卒業。日本音楽コンクール第1位、黒柳賞、レウカディア賞、鷲見賞、岩谷賞、聴衆賞を受賞。ドイツ国立ハノーファー芸術大学、ジュネーヴ音楽院(ジュビターカレッジ)として在籍。ハン・アイスラー音楽大学ベルリンを卒業。現在、東京藝大准教授、名古屋フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター、愛知県立芸術大学非常勤講師、藝大フィルハーモニー管弦楽団ソロンサートマスター等幅広く活躍。使用楽器はNPO法人イエローエンジェルより貸与されている銘器マレストリエリ1760年。

日本音楽コンクール第1位、マルメ北欧ピアノコンクール第1位ほか、2013年仙台国際音楽コンクールセミファイナリストおよび聴衆賞を受賞。日本フィル定期公演やヨーロッパ各国、アメリカ、ロシア、日本各地でのリサイタルをはじめ国内外にて演奏活動を展開する。東京藝術大学音楽学部を経て英国王立音楽大学大学院モスクワ音楽院にて研鑽を積む。現在は演奏活動の傍ら東京音楽大学ならびに東京藝術大学音楽学部にて後進の指導に注力している。

仙台銀行ホール イズミティ21 コンサートシリーズ
Facebook公式ファンクラブ イズミノオトモダチ
コンサートに関する情報など発信していきます。ぜひ"いいね!"してください。
URL: <https://www.facebook.com/izuminootomodachi/>

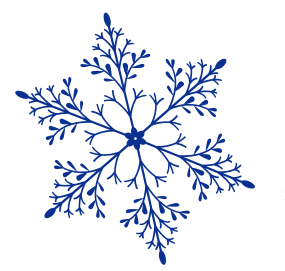


仙台銀行は、コンサートシリーズ「イズミノオト」への協賛を通じて、地域の文化活動を支援しています。

「プログラム」
チャイコフスキー
アンダンテ・カンタービレ(チェロとピアノ版)
四季 作品37bより 4月「松雪草」、5月「白夜」、11月「トロイカ」
懐かしい土地の思い出 作品42 第3曲「メロディ」
ワルツ・スケルツォ 作品34
ピアノ三重奏曲 イ短調 作品50 「偉大な芸術家の思い出に」

仙台銀行ホール イズミティ21 コンサートシリーズ
イズミノオト 第6回 チャイコフスキー 偉大な芸術家ノ思い出に

ヴァイオリン
植村 太郎



2021
11 / 28 (日)

【開演】午後3時(開場 午後2時30分)
【会場】仙台銀行ホール イズミティ21 小ホール
(仙台市営地下鉄泉中央駅北3出口すぐ)

チェロ・コーディネーター
吉岡 知広

ピアノ
浜野与志男

Pyotr Il'yich Tchaikovsky

【プレイガイド】 仙台銀行ホール イズミティ21、日立システムズホール仙台(10月1日から取り扱い)、藤崎、仙台三越、ロウンチケット(Lコード:22494)
【チケットに関するお問い合わせ】 仙台市市民文化事業団 総務課 TEL:022-727-1875(平日9:30~17:00)
【公演に関するお問い合わせ】 仙台銀行ホール イズミティ21 TEL:022-375-3101(9:30~19:30休館日を除く)
【主催】公益財団法人仙台市市民文化事業団、KHB東日本放送 [企画制作]仙台銀行ホール イズミティ21、HAL PLANNING
【協力】日本音楽財団(日本財団助成事業) [協賛]仙台銀行

新型コロナウイルス感染予防のため、ご協力をお願いいたします。

- 37.5度以上の発熱や咳、咽頭痛、倦怠感、味覚・嗅覚の喪失等の症状がある方は、ご来場をお控えください。
- 時間に余裕をもってお越しください。
- ご来場の際は必ずマスクを着用いただき、こまめな手洗い、手指消毒などの感染予防にご協力ください。
- 会場では大声での発声はご遠慮ください。
- チケットの半券にお客様の氏名・電話番号をご記入ください。万が一、会場で感染者が出た場合は、連絡先を保健所等の公的機関へ提供させていただきます。あらかじめご了承ください。
- 退場は順番にご案内いたします。
- 新型コロナウイルス接触確認アプリのインストールを推奨します。
- 出演者・関係者へのプレゼントおよび、お客様のお荷物のお預かりはできません。
- お客様同士の距離の確保をお願いいたします。
- 出演者・関係者への面会はお断りします。

チャイコフスキーについて 私たちが知っている わずかなこと

文 吉川和夫(作曲家、聖和学園短期大学学長)

チャイコフスキーが、日本のみならず、世界的に見ても最も人気の高い作曲家のひとりであることは疑う余地がありません。6曲の交響曲とりわけ第4番から第6番までの3曲は管弦楽の恒常的なレパートリーになっています。ヴァイオリン協奏曲の3つの楽章は優しく温かな旋律、誰もが共感できるであろう寂寥感と孤独さらには心浮き立つ生命の躍動が、聴き手の心に寄り添います。また、ホルンの力強いファンファーレを合図にピアノ独奏が力強い和音で満たす上に、弦楽器によって奏でられる堂々たる旋律。ピアノ協奏曲第1番の冒頭からは、一度聴いたら忘れられないインパクトを受けるでしょう(ただその堂々たる旋律、実は第1楽章の「序奏主題」に過ぎず、二度と同じ形では戻ってこないという、破格の構成を取っているのです)。さらに、3つのバレエ音楽「白鳥の湖」「眠れる森の美女」「くるみ割り人形」は、バレエを支える音楽としてだけではなく、視覚的要素無しでも十分に楽しむことができるという点で、バレエ音楽の在り方を変えました。チャイコフスキーのバレエ音楽は、後のストラヴィンスキー3大バレエ作品「火の鳥」「ペトルーシカ」「春の祭典」とともに、ロシア・バレエを不朽のものにしています。また、ロシアの国民的作家プーシキン原作によるオペラ「エウゲ

ニー・オネーギン」の音楽の豊潤さについて、ある作曲家は「貴腐ワインの芳香のような」と評しました。まさに言い得て妙です。

歴史に名を刻む作曲家の多くは知られている以外にも膨大な量の作品を作曲しています。その量が多量にも膨大すぎて全容がわからないJ・S・バッハはさておき、モーツァルトでもベートーヴェンでも、よく知られていて頻りに演奏される楽曲よりも、現在では演奏されることのない作品の方が多いです。それらは、若書きの断片やスケッチとして書き留められ、後に別の作品の母体となったものなどありますが、作曲家として自立してから完成されたにも関わらず忘れ去られてしまった作品、やや完成度の劣る作品などが、どんな天才的な作曲家であっても多数残されています(余談ですが、全作品のうち演奏されないものが少ないと言われているのはショパンです)。

チャイコフスキーの場合、最後の作品の作品番号が79で、大作曲家の作品番号としては取り立てて大きな数字ではありません。しかし、3幕のバレエも4幕のオペラも作品番号はひとつ「6」の歌曲といったいくつかの曲からなる作品にも作品番号はひとつしか振られておらず、さらに作品番号のない曲もたくさんあるので、チャイコフスキーが実際に作曲した曲は、かなりの量にのぼっているのです。

チャイコフスキーの音楽の多くの部分からは、集中して一気に書きとめたような勢いが感じられます。同時に、和音進行の工夫や思いがけない転調の連続が見られ、非凡な閃きとともに、チャイコフスキーが非常に高い技術を備えていたことがわかります。多くの作品は非常に短期間でまとめられました。例えば、交響曲第4番とオペラ「エウゲニー・オネーギン」は平行して作曲され、10か月ほどではほぼ同時に完成させていますし、ヴァイオリン協奏曲は11日間でスケッチを取り、2週間以内に管弦楽のスコア(総譜)を完成させたと伝えられています。

ほぼ同世代のロシアには、作曲家集団「ロシア五人組」(パレキレフ、キュイ、ムソルグスキー、ボロディン、リムスキー・コルサコフ)がいました。反西洋、反アカデミズム、反プロフェッショナルリズムを掲げて活動していた「ロシア五人組」に対し、チャイコフスキーは、「近代ロシア音楽の父」グリツカの影響を受け、時に民謡などの民族的な素材を扱うという共通点はありませんが、「ロシア五人組」とは一線を画しています。チャイコフスキーはアントン・ルビンシテインによって設置されたばかりのペテルブルク音楽院(現在のサンクトペテルブルク音楽院)で西洋音楽の研鑽を積んだ職業音楽家でした。不滅の作品創作を自らの使命として努力し続けた過去の大作曲家たちにならって「靴屋が長靴を作るような」技術を備えた職人、職業音楽家たらんとしたのが、チャイコフスキーの創作に対する基本的な態度でした。

チャイコフスキーの音楽は、交響曲をはじめとして管弦楽で演奏されるイメージが強いのですが、それは作品数にも表



ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー



ペテルブルク音楽院

1840年 4月25日 ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー、ロシア中部の都市ウオトキンスクに生まれる。

1862年 創設されたばかりのペテルブルク音楽院に入学。アントン・ルビンシテインから作曲を学ぶ。

1866年 モスクワに赴き、アントンの弟ニコライ・ルビンシテイン邸に寄宿する。

1871年 弦楽四重奏曲第1番初演。

1875年 ピアノ協奏曲第1番初演。月刊誌のためにピアノ曲「四季」を書き始める。翌年完成。

1876年 8月 第1回バイロイト音楽祭に立ち会う。富豪の未亡人ナジェージュダ・フォン・メックとの文通がはじまる。

1877年 バレエ「白鳥の湖」初演。

1878年 ヴァイオリン協奏曲を完成。

1881年 3月11日 ニコライ・ルビンシテイン死去。

1882年 ピアノ三重奏曲「偉大な芸術家の思い出し」を完成。

1890年 バレエ「眠りの森の美女」初演。

1892年 バレエ「くるみ割り人形」初演。

1893年 10月16日 交響曲第6番「悲愴」の初演を指揮。

10月25日 チャイコフスキー死去。

※日付は旧暦(ユリウス暦)で記しています。



ナジェージュダ・フォン・メック夫人



ニコライ・ルビンシテイン

れています。管弦楽曲、管弦楽を伴う舞台作品、独奏楽器と管弦楽による協奏曲等は、作品番号が付けられているものだけでも42作品。それに対して室内楽曲は6作品にとどまります。6作品の内訳は、第1番から第3番までの弦楽四重奏曲、ヴァイオリンとピアノのための3曲からなる「懐かしい土地の思い出」、ピアノ三重奏曲、そして「フレンツェの思い出」と題された弦楽六重奏曲です。作品数からみても、チャイコフスキーの室内楽曲を聴く機会はいくらでも多くないということになります。弦楽四重奏曲第1番作品11の第2楽章だけは例外でしょう。速度発想標語がそのまま固有の曲名となった「アンダンテ・カンタビレ」です。ロシア西部の町カーメンカで書き留めたウクライナ民謡を模したと言われるこの穏やかで美しい音楽は、文豪トルストイをも涙させ、チャイコフスキーの名声を外に広く知らしめる名作となりました。

Pyotr Il'yich Tchaikovsky

チャイコフスキーの室内楽曲で最も存在感ある名作が、ピアノ三重奏曲「短調」偉大な芸術家の思い出し(作品50)です。「偉大な芸術家が示すのはチャイコフスキーより5歳年上のピアニスト・音楽教師であったニコライ・ルビンシテインのこと。ニコライの兄アントン・ルビンシテインは、フランスリストと並び称されたピアニスト・作曲家であり、先に述べたようにチャイコフスキーの師のひとりでしたが、弟ニコライはチャイコフスキーにさまざまな活動の場を用意するなど、良き理解者、演奏者でした。モスクワ音楽院関係者を総動員して、オペラ「エウゲニー・オネーギン」の世界初演を実現させたのもニコライでした。一方、ニコライがピアノ協奏曲第1番について、「陳腐で低俗、演奏不可能と断じたエピソードはよく知られています。全面的に書き直すべき」というアドバイスはチャイコフスキーは受け入れず、ドイツの指揮者ハンス・フォン・ビューローの尽力によって初演は成功しました。その後ニコライは、批判的な意見を撤回し、指揮者またピアニストとして、ピアノ協奏曲第1番の理想的な演奏者となって、作品の真価を広める大きな役割を果たしました。

時に音楽観が対立し、敵意に似た感情を抱いたことはあっても、チャイコフスキーにとってニコライは、終生敬愛する上司であり友人でした。1881年3月、ニコライがパリで客死した報せに衝撃を受けたチャイコフスキーは、しばらくの間作曲への興味を失ってしまいました。この年の暮れ頃からニコライに捧げるためのピアノ三重奏曲に着手して、ほぼ1月で完成させました。

精神的、金銭的パトロンとしてチャイコフスキーの多くの創作を支えたナジェージュダ・フォン・メック夫人は、かねてからピアノ三重奏曲を作曲するよう求めていました。しかしチャイコフスキーは、「ピアノと弦楽器はバランスが悪く、ピアノを用いるのは独奏か管弦楽との協奏、または伴奏だけ」と退けていました。チャイコフスキーにとって、ピアノは1台で全宇宙を表現できる、それに対峙する2台の弦楽器はバランス的に力不足と思えたのでしょうか。チャイコフスキーがピアノという楽器をどのように考えていたかを伝える興味深いエピソードです。思入へ献呈するためにチャレンジしたピアノ三重奏曲は、結果的にはピアノにかかる比重がたしかに大きいのですが、決してバランスを欠くことはなく、19世紀最後の極上のピアノ三重奏曲となりました。

チャイコフスキーが影響を受けた作曲家は、グリツカの他にモーツァルトやシューマンでしたが、ペルリオズやリスト、ブラームス、サン・サンスらロマン派を代表する作曲家たちとは実際に会っています。1876年8月には、評論の仕事のために第1回バイロイト音楽祭を訪れ、ヴァーグナー「ニーベルングの指輪」全四部作初演という歴史的な音楽的事件に立ち会いました。同時代の作曲家たちからの影響を表明していませんが、好むと好まざるに関わらず、時代の空気はチャイコフスキーを包んでいました。またチャイコフスキーの音楽は、トルストイをはじめルグーネフやチェーホフといった同時代の文豪たちからも支持されました。伝記や手紙、作品表を眺めていると、私たちがチャイコフスキーについて知っていることはほんのわずかであると、興味深く思えます。ちなみに、チャイコフスキーはメック夫人と直接会うことはありませんでしたが、夫人が音楽教師として雇ったフランス人は、ピュッシーでした。ピュッシーは、メック夫人やその子供たちとチャイコフスキーの作品を連弾して楽しんだとのことでした。

カタカナ表記→ ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー
チャイコフスキーのアルファベット表記の方法はいくつかありますが、ここではPyotr Il'yich Tchaikovsky と表記します。

イズミノオト



吉岡 知広
チェロ・コーディネーター
仙台市泉区出身。桐朋女子高校音楽科共学を経て桐朋学園大学音楽部門を卒業。その後、ライプツィヒ音楽演劇大学大学院に在学するとともに、ライプツィヒ・ゲワントハウス管弦楽団と学生契約をし、在籍第9回ピボートルチェロコンクール第4位入賞。チェロを金木博幸、青木十良、藤原真理、毛利伯郎、C・キガリの各氏に、室内楽を全井信子氏、東京クアルテットに師事。現在、仙台フィルハーモニー管弦楽団首席チェロ奏者として在籍。



野平 一郎
ピアノ
東京藝術大学大学院修了後、パリ国立高等音楽院に学ぶ。作曲家、ピアノリスト、指揮者、教育者として国際的に活躍。サントリー音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、同文部科学大臣賞、二度の尾高賞、日本芸術院賞等を受賞。2012年紫綬褒章受章。現在、静岡音楽館AOI芸術監督、東京文化会館音楽監督、東京藝術大学名誉教授、東京音楽大学教授。2022年開催仙台国際音楽コンクールのピアノ部門審査委員長。



神谷未穂
ヴァイオリン
桐朋学園大学、ハノーファー国立音大、同大学ソリストクラスをそれぞれ首席卒業。リ国立高等音楽院最高課程修了。国内外のコンクール多数入賞。仙台フィル横浜シフオニエタ、千葉響ンサートスタ、宮城学院女子大学特命教授。音楽による復興センター東北理事。デュオ・ブリマクアルテット・パトナとして活動。宮城県芸術選奨受賞。最新CDのアンサンブル・レゾナンス・異国組曲は音楽誌で好評を得ている。



井野邊大輔
ヴァイオリン
1991年満場一致の支持率を以って入団後、22年に渡りNHK交響楽団に在籍。真摯で誠実なアプローチと構築力により共演する演奏家、指揮者から常に厚い信頼を受け続ける実力派。その多彩な音色と圧倒的な表現力は群を抜く。第68回日本音楽コンクール作曲部門委員会特別賞受賞。2014年より仙台フィルハーモニー管弦楽団ソ首席。2015年より大阪フィルハーモニー交響楽団特別契約首席を兼務。洗星海音楽院特別契約首席を兼任。洗星海音楽院特別契約首席を兼任。洗星海音楽院特別契約首席を兼任。



戸田敦
フルート
武蔵野音楽大学、パリ・エコール・ノルマル音楽院ティームコンセルヴァトワールを卒業。村田四郎、佐久間由美子、工藤重典、フノワ、フロマンジェの各氏に師事。日本管打楽器コンクール、ブカレスト青年音楽コンクール、日本フルート・コンベンション・コンクール等、国内外のコンクールに入賞。現在、仙台フィルハーモニー管弦楽団首席フルート奏者、武蔵野音楽大学非常勤講師。



清水梨紗
ハープ
6歳よりハープを始める。1994年桐朋女子高等学校音楽科に入学。桐朋学園大学を経て、同大学研究科を修了。国際ハーブ・コンクールにて、フランクの中丸三千繪氏と、2019年フルートライヴでは工藤重典氏、ミシェル・モラゲス氏、イジュー氏と共に、演じる清水彩華とハープデュオを結成し、軽井沢音楽祭や国際ハーブフェスティバルなど多数の音楽祭に出演している。これまでに佐藤厚子、木村茉莉、ヨセフ・モルナルの各氏に師事。

「プログラム」 クロード・アシル・ドビュッシー

月の光（ハープ独奏）

子供の領分

第1曲 グラドウス・アド・パルナツスム博士

第2曲 象の子守歌

第3曲 人形のセレナード

第4曲 雪は踊っている

第5曲 小さな羊飼

第6曲 ゴリウオーグのケークウォーク

2つのアラベスク

シランクス

チェロ・ソナタ ニ短調

フルート、ヴァイオリンとハープのためのソナタ

ヴァイオリン・ソナタ 短調

仙台銀行ホール イズミティ 21 コンサートシリーズ
Facebook公式ファンクラブ イズミノオトモダチ
会員募集中!
コンサートに関する情報など発信していきます。ぜひ“いいね!”してください。
URL: <https://www.facebook.com/izuminootomodachi/>

新型コロナウイルス感染予防のため、ご協力をお願いいたします。

- 37.5度以上の発熱や咳、咽頭痛、倦怠感、味覚・嗅覚の喪失等の症状がある方は、ご来場をお控えください。
- ご来場の際は必ずマスクを着用いただき、こまめな手洗い、手指消毒などの感染予防にご協力ください。
- チケットの半券にお客様の氏名・電話番号をご記入ください。万が一、会場で感染者が出た場合は、連絡先を保健所等の公的機関へ提供させていただきます。あらかじめご了承ください。
- 新型コロナウイルス接触確認アプリのインストールを推奨します。
- お客様同士の距離の確保をお願いいたします。
- 時間に余裕をもってお越しください。
- 会場では大声での発声はご遠慮ください。
- 退場は順番にご案内いたします。
- 出演者・関係者へのプレゼントおよび、お客様のお荷物のお預かりはできません。
- 出演者・関係者への面会はお断りします。

仙台銀行ホール イズミティ 21 コンサートシリーズ
イズミノオト 第7回 ドビュッシー 月ノ光

ピアノ
野平 一郎

ヴァイオリン
井野邊大輔

フルート
戸田 敦

ヴァイオリン
神谷未穂

チェロ・コーディネーター
吉岡知広

ハープ
清水梨紗

2022
2 / 27 (日)

【開演】午後3時（開場 午後2時30分）

【会場】仙台銀行ホール イズミティ 21 小ホール

（仙台市営地下鉄泉中央駅北3出口すぐ）

【入場料】全席指定 3,000円

（市民文化事業団友の会料金 2,700円）

※未就学児はご入場いただけません

2021年12月3日（金）一般発売

Claude Achille Debussy

【プレイガイド】 仙台銀行ホール イズミティ 21、日立システムズホール仙台、藤崎、仙台三越、ローソンチケット（Lコード:22284）
【チケットに関するお問い合わせ】 仙台市市民文化事業団 総務課 TEL:022-727-1875（平日9:30～17:00）
【公演に関するお問い合わせ】 仙台銀行ホール イズミティ 21 TEL:022-375-3101（9:30～19:30休館日を除く）
【主催】公益財団法人仙台市市民文化事業団、kbb東日本放送 【企画制作】仙台銀行ホール イズミティ 21、HAL PLANNING
【協力】日本音楽財団（日本財団助成事業） 【協賛】仙台銀行

確かな信頼 これからも

70th ANNIVERSARY

仙台銀行は、コンサートシリーズ「イズミノオト」への協賛を通じて、地域の文化活動を支援しています。



クロード・アシル・ドビュッシー

フランス印象派を代表する作曲家、クロード・ドビュッシー。その創作の最大の特徴は、音楽によって色彩や香り、運動、大気までも表わしたことにあります。フランス古典主義の伝統を礎としつつ、そうしたものを表現するために、独特の音階やハーモニーを用いました。また、20世紀前期にフランスにジャズが流入すると、いち早く自らの作品に取り入れました。ここでは、自由な感性にあふれた作曲家、ドビュッシーの生涯を、彼の名作とともに追っていきます。

文 道下京子(音楽評論家)

●パリへ、そして音楽との出会い
1862年8月22日、クロード・ドビュッシーは父マニュエルと母ヴィクトリーヌのもと、パリ近郊のサン＝ジェルマン＝アンリに生まれました。父は陶器商を営んでいましたが、ドビュッシーが5歳の頃に一家はパリへ移り住みます。父は何度か転職するなど、暮らして向きは決して楽なものではなかったと思われます。

ドビュッシーの妹や弟は、カンヌに住むおばに預けられました。彼も1870年におばのもとに滞在する機会があり、そこでヴァイオリニストからピアノの手ほどきを受けます。

時は普仏戦争の真っ只中でした。1871年、父は失職したのちに国民軍に入りますが、ほどなく捕虜となつてしまいます。収容所では作曲家シャルルド・シヴリとの出会いがあります。その伝で、ドビュッシーはモテ夫人(詩人、ウエルレーヌの義母)にピアノを習い始めます。ショパンの弟子と伝えられる彼女の指導は、ドビュッシーが音楽の道を切り開いていく大きなきっかけとなりました。

●パリ音楽院時代：ローマ大賞への挑戦
1872年10月、ドビュッシーはパリ音楽院のピアノ科に入学。マルモンテルにピアノを師事するも、なかなか1等賞をとることができず、ピアノ科を離れます。ピアノ伴奏科ではバズィーニに学び、1880年に1等賞を獲得。また、ソルフェージュをラヴィニャックに学び、1等賞を得ます。その他、和声法をデュランに、ギローに作曲法を師事しました。

パリ音楽院在学中の1880年、ロシアの鉄道王メックの未亡人(チャイコフスキーのバトロン)として知られるの3か月以上におよぶ旅行に、ドビュッシーはピアノリストとして同伴します。その翌年と翌々年にも彼女の旅行に同伴し、ロシアやイタリアに滞在。《ピアノ三重奏曲ト長調》は、メック夫人との旅行の期間に作曲されました。

また、ドビュッシーは音楽院在学中、ローマ大賞に3回挑戦します。ローマ大賞は、当時の若手作曲家の登竜門のような存在と言えましょう。1884年、彼は《カンタータ「放蕩息子」》でローマ大賞を獲得しました。

ドビュッシーは、1884年までパリ音楽院に在籍し、ローマ大賞の規定により翌年からイタリアへ留学し、メデイチ家の別荘に滞在。しかし、保守的な傾向に飽き足らなくなり、パリへ戻ってしまいます。アカデミーに提出した《ジュレイマ》は、「理解しがたい上演不可能なもの」と変更を余儀なくされました。

●印象派の作曲家として
1887年3月、ドビュッシーは2年間のローマ留学を終え、パリへ戻ります。1887年にローマで作曲された《管弦楽のための「春」》をアカデミーに提出しますが、「漠然とした印象主義」との批判を受け、受理されませんでした。当時、印象主義という言葉は、モネの絵画「印象、日の出」に対して呼ばれた批判的な言葉でした。ドビュッシーは、モネの絵に通じるものを感じ、絵画への造詣を深めていきます。

もともとワーグナーに関心を寄せていた彼は、88年と89年にバイロイトへ赴き、《楽劇「ニルンベルクのマイスタージン

ガー」などのオペラや楽劇などを観ました。ワーグナーへの関心は徐々に薄れていきますが、その後作曲された《オペラ「ペレアスとメリザンド」》は、彼の《楽劇「トリスタンとイゾルデ」》からの影響を強く示しています。

1889年、ドビュッシーは国民音楽協会へ入会。この団体は、フランスの器楽の興隆を目指して1871年にサン＝サーンスらによって創設されました。

1880年代のドビュッシーは、歌曲を多く作曲しています。恋愛感情を抱いていたアマチュア声楽家のマリ＝ブランシュ、ヴァニエらとの出会いは、彼の歌曲への創作意欲を高めたのかもしれません。

●異国趣味

異国趣味は、当時のフランスの文化を彩っていました。その背景となったのは植民地文化です。異国のさまざまな文化は、フランス文化と見事に融合していきます。ドビュッシーは、1889年に開催されたパリ万博でガムランなどの東南アジアの民族音楽に接し、強い衝撃を受けます。のちに、東南アジアの民族音楽の旋法やハーモニーの響き、リズムといった音の要素を、自らの作品に取り入れるようになります。ピアノ曲の「パゴダ(塔)」「版画」よりや日本の蒔絵の印象を表わした「金色の魚」(映像第2集)よりなどの作品には、そのようなオリエンタリズムが反映されています。

1890年代に入ると、ピアノなどの器楽作品や規模の大きな作品の創作にも意欲的に取り組み、ドビュッシーは彼の個性を確立していきます。特に、1890年から91年にかけてピアノ曲が多く作曲されていますが、この頃に彼の作曲語法が形成されていったと捉えることができます。

●象徴派の詩人マラルメとの出会い

1890年、ドビュッシーは「アシル・クロード」から「クロード・アシル」と名前を変えました。また、この頃から詩人ステファヌ・マラルメの「火曜会」へ参加。また、カフエ「黒猫」など



パリ近郊の街 サン＝ジェルマン＝アール

パリ近郊に生まれ、5歳でパリへ移住。モテ夫人から本格的にピアノを学ぶ。パリ音楽院に入学。ロシアの鉄道王メックの未亡人の旅行に、ピアノリストとして同伴(81年、82年)。

3度目のローマ大賞の挑戦で《カンタータ「放蕩息子」》で大賞獲得。

2年間のローマ留学を終え、パリへ戻る。国民音楽協会へ入会。パリ万博でガムランなどに接する。



カミーユ・サン＝サーンス

この頃からマラルメの「火曜会」などへ参加。多くの文人や芸術家らと知り合う。ピアノ作品の創作も増え、彼の作曲語法が形成されていく。



詩人・ステファヌ・マラルメ

《牧神の午後への前奏曲》初演。

リリー(ロザリ・テクシエ)と結婚。

《オペラ「ペレアスとメリザンド」》初演。

エンマ・バルダックと出会い、恋愛関係へと発展。



エンマ・バルダック

- 1905年
- 1914年
- 1917年
- 1918年

10月《交響詩「海」》初演。その半月後、エンマとの間に娘クロード＝エンマ誕生。第1次大戦勃発。病が悪化。演奏活動に終止符を打つ。パリで没。



クロード・モネ「印象・日の出」

Claude Achille Debussy

にも出入りし、多くの象徴派の文人や芸術家らと交流をもつようになり。文法的な規則にとらわれず象徴的な言葉の表現を追求したマラルメの詩は、ドビュッシーに深い影響を与えました。マラルメの詩「牧神の午後」を背景とした「牧神の午後への前奏曲」(1894年初演)の最初の部分にも、その傾向は顕著に見られます。

また、「牧神の午後への前奏曲」と同じ時期に書かれた弦楽四重奏曲も、彼の代表作のひとつです。調性音楽から離れた旋法的な書法や、調性をもったハーモニーの機能から解放された自由な響きは、新たな時代の扉を鮮やかに開いていきました。

時間じくして《オペラ「ペレアスとメリザンド」》の創作の準備が始まります。フランス語の抑揚を大切にしながら、このオペラは、1902年に初演。その後、欧米で数多く上演され、ドビュッシーの名は広く知られるようになりました。

私生活では、恋愛をいくつ重ねています。なかでも、ガブリエル・ポンは初期のドビュッシーの作曲活動を献身的に支えました。ところが、彼が別の女性に心を寄せたことに絶望し、デュボン は自殺未遂。ふたりは破局を迎えます。1898年、彼はリリー(ロザリ・テクシエ)と出会い、翌年に結婚しますが、彼女もこの自殺を図っています。彼の女性への愛はあまりにも複雑でした。

●ドビュッシーと絵画

ドビュッシーは、絵画好きとしても知られ、ローランサンやモネ、ロートレックらの画家と交流をもっていました。自らの音楽の創作においても、彼は色彩感を尊重し、音楽と絵画との融合を目指していたのです。

1903年に完成したピアノ曲《版画》で、ドビュッシーは印象派の作風を確立させます。この作品集には、エキゾチックな題材が多く取り入れられています。一方で、その翌年に完成した《喜びの島》は、彼が愛好した画家ヴァーアの「シテール島への巡礼に靈感を得ています。

1904年、ドビュッシーは生徒のラウル・バルダックの母エンマと出会いました。ふたりはほどなく恋に落ち、リリーは拳銃自殺を図ります。翌年、二人の離婚は成立しましたが、ドビュッシーは多くの交友関係を失ってしまいます。そのなかで、1905年10月には「交響詩「海」」の初演を果たしました。海をこよなく愛した彼は、多彩な音のパレットを通して、自身へのイメージを音楽に託したのでしょう。この作品の初版譜の表紙を飾ったのは、葛飾北斎の「富嶽三十六景」の一枚、神奈川沖波裏です。

●娘シュニエの愛

《交響詩「海」》の初演から半月後、エンマとの間に娘クロード＝エンマが生まれます。ドビュッシーは娘を「シュニエ」と呼んで可愛がりました。その翌年から「子供の領分」の創作に着手し、1908年に完成させます。その年、彼はエンマと結婚しました。

1909年9月、パリ音楽院の上級評議会の一員に任命されます。試験課題の作成も担当し、クラリネットとピアノのための《第一狂詩曲》を作曲。この作品は、いまもクラリネット奏た。

者の重要なパートナーとなつています。視覚の世界を音で表現する彼の作風は、1910年に完成した《前奏曲集 第1集》でさらに具現され、それまでの長調や短調とは異なる新しい音階を用いた音楽が示されています。1912年には《前奏曲集 第2集》も完成します。

また、1910年ころから、ディアギレフらの委嘱を受けてバレエ音楽にも意欲的に取り組みようになり、1913年には《遊戯》と《おもちゃ箱》を書き上げました。

●晩年

1914年、第1次大戦が勃発。ドビュッシーの病氣も深刻さを増していきます。彼は戦争と病気に苦しみながらも、同年秋にショパンの楽譜の校訂を引き受けました。海外へ赴いたのも、この年が最後でした。

1915年には、「12の練習曲集」を完成させました。この作品は、ショパンの練習曲を礎としつつ、一部にはサン＝サーンスの影響も見られます。またその頃、彼は「さまざまな楽器のための6つのソナタ」を構想し、亡くなるまでに3曲書き上げます。すなわち、1915年に完成した《フルート、ヴィオラとハープのためのソナタ》と《テロ・ソナタ》と、1917年に完成した《ヴァイオリンソナタ》です。その年の終わりに、ろに腸のがんと診断されます。

経済的に困窮した状態が続いていたドビュッシーは、先妻リリーへの月々の手当ても滞り、1916年に裁判所からリリーへの支払いを命じられています。

病が進行しても、ドビュッシーは創作とともに演奏活動を続けていきましたが、1917年7月に《ヴァイオリンソナタ》をヴァイオリニストのガストン・ブーレ(第3回仙台国際音楽コンクール(2007年)ヴァイオリン部門で審査委員長を務めたジェラルド・ブーレの父)との共演後、演奏活動に終止符を打ちます。

1918年に入ると重篤な状態となり、3月25日パリで息を引き取ります。55歳でした。